



福島放技ニュース

THE NEWS OF THE FUKUSHIMA ASSOCIATION OF RADIOLOGICAL TECHNOLOGISTS

2014

7月8日号

141
VOL.

発行所 公益社団法人 福島県診療放射線技師会

〒960-8003 福島市森合字蒲原16-7 TEL/FAX 024 (659)1043

ホームページアドレス <http://fart.jp/>

巻頭言

新法人移行二年目にあたり



会長 齋藤 康雄

平成26年度公益社団法人福島県診療放射線技師会定時総会も終了し、実質的な新年度の事業が開始された。公益社団法人移行の2年目になる本年度は、移行後に立案した計画で事業が執行される。真価が問われる年度となりそうだ。初年度の教訓を生かして対応していきたい。

毎回申し上げているように思うが、本会の目的は、講習会・研究会等を通じて個人のスキルを上げ、県民医療の向上に貢献することを根幹とし、県民の皆さんへの公開講座や健康まつり、放射線の相談などを通じて放射線について啓発活動を行うことにある。是非研究会等に参加されて自己研鑽に努めて貰いたいと願っている。また、今年度からの事業として、会員による学術研究の促進を図る目的で、研究助成金支給制度が理事会で承認された。是非活用していただきたい。

まだまだ不安が払拭されていない放射線被ばくは、福島県では当たり前のように行われている個人被ばく線量測定も、福島県以外では生活環境下での個人の被ばく線量を知る機会は少ない。このような状況下で、今年度の環境省の委託事業による福島県以外の汚染状況重点調査地域における住民の個人被ばく線量把握事業を、日本診療放射線技師会が7月から始める。来年の2月までと、被ばく線量が下がることが予想される積雪期も含めるので長期間となる。当該地域の職場に通勤するか居住する診療放射線技師とその家族を対象とし、ガラスバッチと単位時間あたりの線量を測定しトレンド解析ができる2種類の線量計から選択し、常に携帯するようになる。線量計の扱いに慣れている診療放射線技師等を対象にすることで、生活行動でのより精度の高い測定データが取れるものと期待されている。福島県はこの事業に参画することを理事会で決めて、地区協議会委員長を通じて募り52名の希望者があり協力していただくことにした。住民の皆さんはいつも同じ場所に止まっていることはあり得ず常に活動している。環境放射線量は場所により異なり、実生活活動下の行動経路で実被ばく線量を計り知ることは重要なことである。福島県は、既に各省庁で児童・生徒を対象にガラスバッチによる個人被ばく線量測定を実施しているため、表題上は福島県は除かれているが、同じ方法で福島県内の生活環境線量を測定することにより、比較データとして県内でのより正確な個人の放射線被ばく線量データが収集できるものと期待されている。まだまだ、放射線被ばくに対する不安を根強く抱いている人も少なくない。このようなデータを活用することにより、より現実的な説明ができるようになることを願っている。

先に開催された日本診療放射線技師会定時総会の役員改選では、残念ながら東北地域から推薦した土佐理事候補は落選したが、東北地域理事として宮城県の阿部会長が就任した。

危惧されている会員減少問題、法改正への取り組みなど、課題は山積しているが新体制の活躍に期待する。

本年度も、会員の皆様の意向を取り入れながら会運営に取り組んでいく所存である。更なるご協力とご支援をお願いします。

定時総会開催される

平成26年5月24日(土)13時30分よりホテルニューパレスにおいて、会津地区協議会担当のもと「第69回公益社団法人福島県診療放射線技師会定時総会」が開催された。

総会に先立ち学術委員会分科会活動について各分科会の担当より報告があった。続いて一般公開形式で、キャンベラジャパン社 技術部ソリューションビジネス課長の鈴木敦雄氏より「食品をはじめとした様々な放射線測定の実際」と題して特別講演が行われた。その後、16時30分より定時総会が開催された。以下議事録抜粋。

1、総会成立 総会運営委員長幕田節男より、会員総数625名中464名の出席があり、定款第17条の定足数を満たすので有効に成立する旨報告された。

1、議長 議長に会員池田昭文、同高橋香保里が選出され、満場一致により承認された。議長は、本会は適法に成立したので開会することを宣し、直ちに議事に入った。

1、議題

第1号議案 公益社団法人福島県診療放射線技師会平成25年度事業報告について

会長齋藤康雄から詳細な説明がされた。議長はこれを議場に諮ったところ、質問意見なく、満場一致異議なく承認された。

第2号議案 公益法人福島県診療放射線技師会平成25年度決算報告について

経理担当阿部郁明から詳細な説明がされた。議長はこれを議場に諮ったところ、質問意見なく、満場一致異議なく承認された。

第3号議案 公益社団法人福島県診療放射線技師会平成25年度監査報告について

監事片倉俊彦から平成25年度監査を、平成25年5月7日に行った結果、理事の職務執行は適正に行われていること。貸借対照表、正味財産増減計算書及びその附属明細書ならびに財産目録は、法人の財産及び損益の状況について適正かつ正確に示しているとの報告がされた。議長はこれを議場に諮ったところ、質問意見なく、満場一致異議なく承認された。

第4号議案 公益社団法人福島県診療放射線技師会平成26年度事業計画案について

会長齋藤康雄から詳細な説明がされた。議長はこれを議場に諮ったところ、質問意見なく、満場一致異議なく承認された。

第5号議案 公益社団法人福島県診療放射線技師会平成26年度予算案について

経理担当阿部郁明から詳細な説明がされた。議長はこれを議場に諮ったところ、質問意見なく、満場一致異議なく可決承認された。

第6号議案 名誉会員の推戴について

会長齋藤康雄より、平成25年春の叙勲で瑞宝双光章を受章された会員富塚光夫君を名誉会員に推戴する旨提案された。議長はこれを議場に諮ったところ、満場一致異議なく承認された。

第7号議案 その他

議長はこれを議場に諮ったところ、質問意見がなく議事終了を承認された。よって議長は、以上をもって本日の議事を終了した旨を述べ、午後5時50分閉会した。

日本診療放射線技師会定時総会報告

平成26年6月7日(土)日経ホール(東京都千代田区)に於いて、第74回公益社団法人日本診療放射線技師会定時総会が開催され、福島県診療放射線技師会の代議員 遊佐烈、齋藤康雄、(白川代議員は齋藤に委任)の2名が出席した。

午前11時に開会し、中澤会長の挨拶の後表彰、総会運営委員会報告の後、議長が選任されて議事に入り平成25年度事業報告、決算報告の後昼食のため中断した。昼食時には食事を取りながら、JIRA経済部会 野口雄司氏による、特別講演「平成26年度診療報酬改定と新たな課題」が行われた。13時に議事が再開され、第1号議案平成26年度事業計画案、第2号議案平成26年度予算案が、満場一致で承認された。

第3号議案として、平成26年度・27年度役員選出が行われた。定員内である監事3、外部監事3、地域理事8は信任投票、定員14名のところに17名が立候補している全国理事についてはマークシート方式による投票が行われた。(投票者数176人)その結果、監事、外部監事、地域理事は全員信任された。

全国理事には次の方々当選した。(敬称略)

(北関東) 橋本 薫、児玉直樹、小川 清、富田博信
(南関東) 北村秀秋、中澤靖夫、小田正記、畦元将吾、
江田哲男、小野欽也、原口信次
(中日本) 中村 勝 (中四国) 熊代正行、小林一郎
落選
(東 北) 土佐鉄雄 (南関東) 北村善明

(近 畿) 松本 貴、鈴木賢昭

当選者が決定した後、会長・副会長の選出は投票とせず理事会に一任することが承認されて総会を閉会した。総会閉会后直後に新役員による理事会が開催されて、会長に中澤靖夫、副会長に小川清、佐野幹夫理事が決議され、会場に報告されて就任の挨拶があり全日程が終了した。
(文責：代議員 齋藤康雄)



平成26年度福島県診療放射線技師会 学術大会演題募集のご案内

平成26年度福島県診療放射線技師会 学術大会 演題募集要項

開催日 平成26年11月9日(日)
会場 星総合病院

ポラリス看護学院メグレスホール

演題申込 県技師会HPより、演題名、発表者名、フリガナ、施設名、各会員番号、メールアドレス、技師免許5年未満の有無、抄録本文(700字以内)で目的、方法、結果、考察等の項目を分けて《図表不可》、共同演者の情報(医師等は明記)を、1演題1メールで、申し込んでください。

県技師会HP上でも、入力 of 注意を良く読んで確認してください。

申込期間 26年6月1日(日)から8月31日(日)まで

その他 予稿集は10月下旬には発送予定

大会事務局 〒963-8558 郡山市2-5-20

太田西ノ内病院 放射線部内

実行委員長 新里昌一

TEL 024(925)1188 (内線) 31265

e-mail fgakujutsu@yahoo.co.jp

二瓶秀明さん(竹田総合病院)

「乳腺・脂肪抑制」

高橋大輔さん(北福島医療センター)

「上腹部・呼吸同期」

宮岡裕一さん(福島医大病院)

「腰椎・位相エンコードとサチュレーションパルス」

大宮雄大さん(大原総合病院)

「前立腺・拡散強調」

孔 秀和さん(太田西ノ内病院)

がそれぞれ発表を行った。その後、休憩をはさみ東北大学院、放射線診断科の常陸真先生より「骨軟部疾患のMRIにおける撮影のポイント」についての講演が行われた。撮像には正常解剖の知識が重要であり様々な症例について、どのシーケンスが有効か?撮像断面をどのようにすれば評価しやすいか?など撮像のポイントについて臨床画像を用いながらわかりやすく説明して頂いた。

各施設より多くの参加者があり様々な意見交換や情報交換の場となっていた。
(矢部)

～お詫び～

先に発行いたしました会員名簿に、名誉会員の皆様のご氏名を掲載せずに発行してしまいました。誠に申し訳ありませんでした。

お詫びいたしますとともに、ご氏名をお知らせ申し上げます。

現在、以下の11名が本会の名誉会員の方々です。

(敬称省略)

(会津地区) 中丸俊一 佐藤幸志

(県南地区) 大木 晃 高橋勝郎 村松影治

吉田 豊 富塚光夫

(浜通地区) 皆川 信 佐藤知好 渡部浩一郎

持館博志

「第14回福島県MRI技術研究会」 開催される

平成26年6月7日(土)福島テルサにおいて「第14回福島県MRI技術研究会」が開催された。今回は「日常の工夫点とそれに関わる撮影技術」をテーマにシンポジウムが行われ県内6施設から発表があった。

「頭部・スラブの設定とTR・TE」

四家洋介さん(総合南東北病院)

「肩関節・画像コントラストと動き抑制」

「第27回福島県臨床画像研究会」 開催される

平成26年6月14日(土)福島テルサにおいて「第27回福島県臨床画像研究会」が開催された。

はじめにシンポジウム「現状から未来へ」と題し、シーメンス・ジャパン(株)MRビジネスマネジメント新俊幸先生・CTビジネスマネジメント小池泰寛先生、(株)フィリップスエレクトロニクスジャパンCTモダリティスペシャリスト北織潤一先生、東芝メディカルシステムズ(株)CT営業部営業技術担当兼臨床アプリ研究開発センター猪川弘康先生、GEヘルスケアジャパン(株)MR営業部三浦功平先生・CT営業部諸澄政宜先生よりそれぞれ講演が行われ、各社から装置の歴史的な流れと今後の方向性や取り組みについてのお話であった。その中でCTに関して管球を2本搭載しているシーメンスから管球を増やす可能性も示唆された。現在各メーカーは再構成法として逐次近似法を使っているが、画像フィルター同様の物もあり、フル逐次近似への移行が示唆され、デュアルエネルギーについても各社それぞれの技法で対応。某メーカーではディテクターを二層化し、時間差の無い1回曝射による方法が報告され、今後の製品化にそれぞれのメーカーが独自の特色性を出す意欲が感じられる講演会となった。患者の被ばく低減という同じ方向を向いていることは非常に良い事ではあるが、単に線量を下げるだけではなく必要な線量を確保することにより画質の担保が必要で、放射線技師の立場から常に厳しい目に対応する必要があるようだ。MRIに関しては装置特有の音に対するこだわりが感じられ、静音の努力が行われているが、無音の状態を作り出したメーカーもあり、各社の努力が感じられる。会場から装置の進歩により画像数の増大に対し、読影する側の放射線科医師不足に対する各社の取り組みに対して質問があったが、放射線技師の一次読影が始まっていることもあり、放射線技師の業務拡大が示唆されるシンポジウムであった。

次に特別講演として、山梨大学放射線科 市川新太郎先生より「MR Elastography」についてご講演いただいた。肝臓の硬さを調べることにより患者の状態がどのステージにいるか判断する材料として肝生検がゴールドスタンダードではあるが侵襲的な検査であるのと、生検の場所等によっては正確な状態を把握することが難しい。そんな中でMRIを使って肝臓の硬さを画像化及び数値化することが出来るようになった。硬さが増すにつれて内部への振動の伝わりが早くなるため、その速度と硬

さの関係を数値化し表す方法である。また硬さによる程度を画像的には色の違いとして表現しており、90%以上の確率でその正確性が確かめられているとの報告があった。会場からは組織内の水分量によって伝搬速度に影響が出てくるのではとの質問や他部位への応用についての質問があった。現在、空気の振動を専用のプラスチックのパッドを使用するためフレキシブル的な使い方が出来ないが、乳房や肺、前立腺等に使えるのではとの報告であった。

講演会後の情報交換会では多数の会員が参加し、発表者への質問や各施設における情報交換をするなど有意義な講演会となった。(遊佐)

「診療放射線技師のためのフレッシューズ セミナー」開催される



平成26年6月15日(日)、太田総合病院附属太田西ノ内病院において「診療放射線技師のためのフレッシューズセミナー」が開催された。このセミナーは医療者として必要な医療安全学、医療感染学、エチケット・マナーを学ぶだけでなく診療に対応できる新人診療放射線技師として知っておくべき基礎知識の習得を目的とした講習会で、今回は30名の受講者があった。以下に受講者3名からの感想を列記します。(生涯教育担当：堀江)

【3年目男性技師】

私は、入社3年目となりますがフレッシューズセミナーに参加させて頂きました。マナーや医療安全のセミナーを受け、入社した当時は脳裏に浮かびました。社会や日々の業務に慣れ初心を忘れつつある自分を見つめ直し、気持ちを改める良い機会になったのではないかと思います。また、今回このセミナーで初めて気管支体操を知り、楽しく簡単に気管支の解剖を覚える事ができました。今回学んだ事を活かし、今後も日々の業務に励みたいと思います。

【1年目女性技師】

先日開催された「診療放射線技師のためのフレッシューズセミナー」を受講し、診療放射線技師として勤務する上で非常に重要なことを確認できました。今回受講したエチケット・マナー講座や医療安全・感染対策講座は入職前の研修で学んだ事項と同様の内容も含まれています。しかし実際の臨床現場で2ヶ月間勤務したことで入職前の研修時と比較し、より日々の業務での実践に繋げるイメージを強く持つことができました。また、肺の気管支解剖講座では、気管支を色別に着色したり身体全体を使って気管支解剖を表現する体操をしたりすることを通して記憶にも定着しやすく、楽しんで覚えることができました。同時にCT画像上における肺区域の読影方法と胸部に位置するリンパ節についても講義していただいたので今後実践の場に役立てられるようしっかりと復習したいです。

【1年目女性技師】

今回のフレッシューズセミナーでは、社会人としてのエチケット・マナーから始まり、気管支の解剖まで幅広い講義が行われました。学生を卒業し、社会人として仕事を始めましたが、まだまだエチケット、マナーを十分理解できていませんでした。改めて接遇の大切さ、言葉の選び方、電話対応やメールの送り方など理解することが出来たと思います。医療安全や感染対策では、自身の病院で行っているマニュアルとの比較、そして正しい対策を確認でき、マニュアルを知っているだけでなく、そのマニュアルを実践できるようにしなければ意味がないのだとわかりました。また、1年目の技師のインシデントが統計的に多く、7月～9月にかけて独り立ちするケースが多くなり、その時点でも多発するという点でもあったので、さらに自分の行っている行為が正しいのか、マニュアル通りであるのか、再び見直し知識の再確認を行っていきたく感じました。気管支の解剖は、自分の中でも曖昧な部分であったので、体を使って覚えられとても身になりました。この知識を忘れないように、復習を怠らないようにしていこうと思っています。フレッシューズセミナーでは、福島県内の新人技師との交流の場を設けて下さったので、お互いの顔合わせとしても、いい講習会だと思います。ぜひ、新人技師の方々には参することを勧めたいと思います。

「リレー・フォー・ライフ・ジャパン 2014福島」参加者募集

リレー・フォー・ライフは、がん患者・その家族、そ

の支援者らが会場を交代で夜通し歩き続けながら絆を深め合い、がん制圧への願いを社会へ発信していくチャリティーイベントです。今年は8月2日(土)15時から、3日(日)12時まで「あづま総合体育館」において開催され、「県放射線技師会」もチーム参加いたします。ほんのわずかの時間の参加でも構いません。ご家族づれ、またお友達との参加でも大歓迎です。ぜひお気軽に「技師会のブース」へ立ち寄ってみてください。(長澤)



MR検査における冠動脈ステント等の取り扱いに関するアンケート協力 のお願い

MR検査の安全管理について、新たなインプラント等が発売される都度対応について疑義が生じています。特に冠動脈ステントは、留置している患者も多く、MR検査時の対応については取扱いに関するガイドラインもないことから、医療機関ごとの対応にばらつきが生じています。そこで、標題のとおりアンケートを実施することになり、後日各施設に届く予定です。平成26年7月20日まで、同封の返信用封筒にて、ご報告をお願いいたします。なお、頂いた内容は個人・施設の重要な情報ですので他用は致しません。また個人や施設が特定されることありませんので、ご安心ください。

調査した内容は、東北放射線医療技術大会等での発表を予定しております。

担当：新里昌一 TEL 024(925)1188 内線 31256

地区だより

県北地区

「平成26年度地区協議会全体会」の開催

去る平成26年5月9日、県北地区協議会全体会が福島テルサにおいて開催されました。福島医大の金澤崇史さん、福島赤十字病院の田中諒介さんが議長に選出され「会員数169名中、委任状を含む出席者140名」との資格審査委員からの報告で全体会の有効宣言がなされました。議事は大きな問題も出ず事業計画及び予算も満場一致で

承認されました。平井和子委員長からは、本年度も勉強会や学術講演会を開催



し、市民への啓発活動も積極的に行っていきたいとの抱負が語られました。また本年は「県北たより」を発行し、技師会運営も活発にしていけるよう協力依頼もありました。

(池田)

県南地区

「県南地区サマーセミナー」のお知らせ

毎年恒例となりました県南地区サマーセミナーを開催致します。今回は最近話題の低線量CT、逐次近似処理について企画させて頂きました。皆様の多数のご参加と、まだ会員となられていない方へもご参加頂くよう周知の方宜しくお願い申し上げます。(参加費無料)

開催日：平成26年7月26日(土)

時間：14時15分～17時

場所：太田西ノ内病院 2号館講義室

＜講演内容＞「最近のトピックスと低線量CT（逐次近似処理）について」

1. (株)日立メディコ 北部CT・MR営業課 山口雅己先生
2. GEヘルスケアジャパン(株) CT営業部 両角政直先生
3. (株)フィリップスエレクトロニクスジャパン CTモダリティースペシャリスト 北織潤一先生
4. シーメンス・ジャパン(株) CTビジネスマネジメント部 水町洋章先生
5. 東芝メディカルシステムズ(株)東北支社営業推進部 CT担当 鎌田 歩先生

なお、県技師会生涯教育カウントが加算されますので、会員カードを必ずお持ち下さい。

【お問い合わせ先】

事務局 山口 大 (寿泉堂総合病院)

電話：024-932-6363 (代表)

学術担当 田代和広 (白河厚生総合病院)

電話：0248-22-2211 (代表)

会津地区

「会津乳房撮影研究会」の開催

すでに各地域において、市町村の乳がん検診が始まっていると思いますが、会津地域でも、この6月より乳が

ん検診が始まっています。それに関連して毎回乳房撮影研究会が開催されており、今年は5月29日に竹田総合病院画像診断センターにて行われました。

まず富士フィルムメディカル株式会社様から、「当社のデジタルマンモグラフィ装置」として、装置紹介と性能についてお話いただきました。

昨年度も乳がん検診読影会を行っており、今年度も実施するに当たって、昨年度の反省点や実績報告、今年度に協力してもらえる各施設や担当技師へのお願い、読影を行う担当医師のスケジュールなど、いろいろな注意事項が伝達されました。

各市町村ですでに始まっておりますが、担当される技師のみなさん、最後まで何事もなく終わるように応援するとともに、微力ながらも協力していきたいと思えます。

(森谷)

浜通地区

「第22回いわき地区画像研究会」の開催

平成26年6月13日、いわきワシントンホテル椿山荘において、第22回いわき地区画像研究会が開催されました。

「冠動脈CTの基礎と応用」と題し、岩手医科大学付属病院 中央放射線部



村中健太先生に冠動脈撮影適正条件や造影濃度、被曝低減するための工夫など冠動脈CT撮影の基本をわかりやすく講演していただきました。また、冠動脈CTの撮影応用として、320列CTを用いた冠動脈サブトラクション撮影法を紹介していただいた。冠動脈の石灰部位を単純像と造影像で消し血管の狭窄を描出するという検査法であり、その検査の有効性について話していただき大変勉強になりました。

(菅原)

編集後記

梅雨に入りましたが、今年の梅雨明けの時期は例年より遅くなるという予想も...雨天時は交通事故の発生が何と“5倍”に上がるそうです。医療の現場で事故の怖さを知る私達こそ、運転速度を守り早めのブレーキ操作で“絶対無事故”としていきたい。

(池田)